

岡山で善戦！再び13位で完走!!

決勝日は朝から大雨に見舞われた。ピット前も川のように、コース上にも泥水が溜まりだして、フリー走行はあえなく中止となった。しかし、お昼前には急速に天候が回復し、ウォームアップ走行の時には路面はドライ、決勝レースでは晴れ間が広がる。

スタートドライバーは、今回も和田選手が務めることとなった。

68 週のレースは無事にスタートし、順調に周回を重ねていく。タイヤとのマッチングも良好なようで、36 周を回った頃には、何と 6 位まで順位を上げていた。

無線トラブルで痛恨のタイムロス

実は途中からノイジーだったのだが、どうやらマシン側の無線が壊れたようで、ピットからの問いかけにも反応が無い。

一方、和田選手もピット側にマシンを寄せて合図を送っていたそうなのだが、相互に上手くコミュニケーションが取れず、40 周目、サインボードでピットインしてきたタイミングが悪かった。



3 位を走行していた、ふたつ手前にあるピットのマシンと同周回に入ってしまったのだ。

ピットそのものが狭い岡山では、隣接ピットのマシンと同時に入ると、遅いほうが斜め停車をしないと作業が出来ない。

また、タイヤの磨耗状況が聞けなかった為に、本来リヤ 2 本だけの交換で済ませる所を、念のため 4 本共交換することにした。それが、斜め停車をした為に前輪の装着に手間取ってしまい、ピットワークに 53 秒も掛かってしまったのだ。



猛然とコースインした城内選手は、フレッシュタイヤを生かしてベストラップを連発し、混戦のなか前走車を追い上げる。チェッカーを受けた時には 14 位まで順位を上げていた・・・。

あと一周早くピットに入れられていたら、と思っても後の祭りだ。フロントタイヤも磨耗状態は良好で、無交換で行けそうだった。無線さえ通じていれば、全て防げた

ロスタイムであった。マシンにトラブルが無かったのがせめてもの救いだが、理論上ピットインでのロスが無ければ、8～9 位でゴール出来た筈だ。

レースにタラレバは無いが、凹んでいたメンバーに少しだけ朗報が届いた。2 つ前のマシンにペナルティが加算され、我々の順位がひとつ繰り上がって 13 位となったのだ。

富士では赤旗中断で一つ繰り下がった順位を取り戻した？という、こぼれ話みたいなザルトだが、次回セパン戦では「悲願の入賞を目指して努力を続けよう」と皆で誓い合ったのだった。

温かいご声援、有り難うございました。